

パラバドミントンの普及に、

町田市が貢献

東京2020パラリンピック競技大会から、正式競技になり注目が高まっている

パラバドミントン。共生社会ホストタウンである町田市では、体験会の実施や、国際大会を開催するなどして、市民がパラバドミントンに触れる機会を積極的に設けています。



町田市とパラバドミントンのつながり

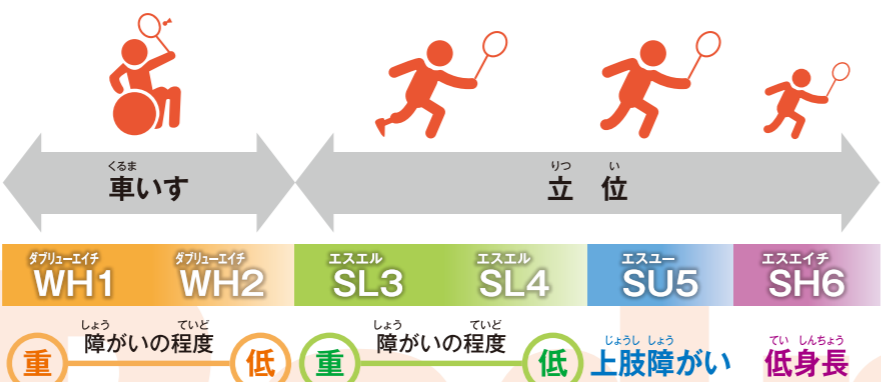
パラバドミントン日本初となる国際大会「ヒューリック・ダイハツ」JAPAN パラバドミントン国際大会2017」が、2017年に町田市立総合体育館で開催されました。それに続き、2018年も「ヒューリック・ダイハツ」JAPAN パラバドミントン国際大会2018」が開催され、世界14の

国と地域から109人の選手が参加。東京2020パラリンピック競技大会に向けて注目が集まったこの大会には、5636人の観客が来場し、連日選手に熱い声援を送りました。日本選手団は9種目で金メダル、7種目で銀メダル、8種目で銅メダルを獲得し、世界にその

強さをアピールしました。町田市では、国際大会はもちろんのこと、パラバドミントンの強豪国インドネシア代表チームのトレーニングキャンプ地として、場所を提供しています。さらに、韓国代表チームも招き、日本代表チームとの合同合宿も行われました。

パラバドミントンのルールについて

パラバドミントンは、大きく分けて車いすと立位があり、障がいによりクラス分けされています。車いすはシャトルを打つ瞬間に、胴体の一部が車いすと接していないといけません。使うコートは広さは障がいのクラスごとに異なり、車いすのシングルスや立位でも障がい重いクラス(SL3)はコートの半分を使って競技を行います。それ以外のクラスでは、コート全面を使います。ネットの高さ(155cm)、ラケットやシャトルも通常のバドミントンと同じです。



パラバドミントン体験会レポート

町田市ではパラバドミントンの普及と、パラスポーツの理解促進、スポーツ文化を子どもたちへ広げるため、市立小学校にパラバドミントンの選手をお招きし、体験会を実施しています。2017年から事業を開始し、延べ3000名以上の子どもたちが参加しています。2020年11月19日、町田市立小山田南小学校の体育館で、強化指定選手のおぐら恵選手と、次世代アスリート育成強化指定選手の中村海斗選手を講師にお招きして、パラバドミントンの体験会を開催しました。



パラバドミントンの競技用車いすを体験する子どもたち。選手たちに乗り方を教わりながら、慣れない車いすを一生懸命に操作していました。



選手たちに教わりながらシャトルを打ち込みました。初めてバドミントンをする子どもたちもいましたが、みんなで楽しく体験できました。



体験会の最後は、選手たちへの質疑応答の時間です。子どもたちから競技や日常生活に関する質問などが飛び交い、とても盛り上がりました。

interview



中村 海斗

1996年生まれ。日本障がい者バドミントン連盟所属。2020年第6回ダイハツ日本障がい者バドミントン選手権大会で、SL4シングルス準優勝。

諦めないことが成長につながる

もともと中学1年生のときから部活動でバドミントンを始めて、高校3年生まで続けていました。19歳でオートバイの交通事故に遭い、足に障がいを負いました。交通事故で辛く苦しい経験をしたのですが、家族や友達の支えがあるからこそ、バドミントンも続けられてここまでがなされています。なので、人と人とのつながりは、大切にしたいです。また、諦めなければどこまでも成長

できると思うので、諦めずにいろいろなことに挑戦して、どんなこともがんばり続けてほしいと思います。そして、子どもたちには、運動する楽しさを知ってもらいたいです。そのうえで、パラバドミントンはこんなにも魅力があるんだということを知って、みなさんから楽しさを発信してほしいです。みなさんとお会いできる日をたの楽しみにしているので、そのときは気軽に声をかけてくださいね！

Badminton

